

利用者満足度を高めるために

連載 第6回

コロナ禍の地域支援

本年4月から三郷ケアセンター（以下、当施設）の取り組みについて連載を開始してから、今回で6回目になる。本稿執筆時点の7月は、新型コロナウイルス（以下、コロナ）のオミクロン株BA.5が猛威を振るい、感染者は爆発的に増加している。

2022年6月までは感染者数が減少し、行動制限もだいぶ緩和され旅行者なども増え、賑やかになってきていた。しかし、コロナの性質上、高齢者や基礎疾患を有する方にとって重症度は変わらず、脅威と不安が残る。医療・介護・福祉の現場でも、いまだ不安感が完全に払拭されることはないが、職員一人ひとりの最大限の努力によりコロナと共存する道を常に模索している。

在宅で生活している高齢者にとっても、コロナと共存しなければ閉じこもりなどによる廃用症候群などの二次的障害という別の脅威・不安も生じてくる。当施設では、すべての高齢者を可能な範囲で支援できるように地域支援にも力を入れ、地域の高齢者への支援も続けている。当施設が地域支援を本格的に始めてから7年になる。今回は、コロナ禍での地域支援で利用者満足度を高める取り組みの一部をお伝えする。

地域支援事業とその目的

介護保険法の地域支援事業とは、被保険者が要介護状態等になることを予防するとともに、要介護状態等となった場合でも可能な限り、地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援する事業だ。

介護保険法の地域支援事業の目的および趣旨については、被保険者が要介護状態または要支援状態になることを予防し、社会に参加しつつ、地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援することを目的とし、地域における包括的な相談および支援体制、多様な主体の参画による日常生活の支援体制、在宅医療と介護の連携

体制および認知症高齢者への支援体制の構築等を一体的に推進するとしている。

コロナ禍での地域支援の状況

当施設のコロナ禍での地域支援の状況を別表に示す。コロナ前と後では、地域支援の様子は資料1のように変わっている。当施設では特に密を避けつつ、どのようにすれば地域支援を継続できるかを考え実践した。

コロナ禍で気をつけたこと

コロナ禍でどのように地域支援を継続したかを示す。

まず、一番に確認したことは施設の方針

別表 コロナ禍での地域支援状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2020年	認・サ	認・サ	認・サ止	認止	認止	認止	認	認	認・サ	認止・サ	認止・サ止	認止・サ
2021年	認止・サ止	認止・サ止	認止・サ止	認	認	認	認・サ	認・サ	認・サ	認	認・サ	認
2022年	認	認止	認・サ	認	認	認	認止					

認：認知症カフェ

認止：コロナ関連での認知症カフェ中止

空欄：予定がなかったもの

サ：高齢者サロンへの健康講座専門職派遣

サ止：コロナ関連での高齢者サロンへの健康講座専門職派遣中止

資料1 コロナ前後の地域支援の変化



コロナ前の地域支援



コロナ禍の地域支援



である。当施設は、施設長の方針である「noblesse oblige」を基準にあらゆる企画を考えている。この方針から地域支援も継続する道は当然のこととして動いた。

次に、地域支援を継続するための感染対策を検討した。厚生労働省からの指針はも

ろんのこと、2020年コロナが出始めたころはコロナ対策のエビデンスが少なく、すべての事業所が感染対策に苦慮されただろう。当施設も例外ではない。

当施設では、一般的なウイルスの特徴や各専門機関が提示した対策方法をインター

資料2 地域支援を行ううえでの感染対策

感染対策 2020年7月版

会場に入る際、①手指消毒 ②検温 ③体調チェック表の記入（氏名・体温・体調・連絡先）
※最初の受付時は参加者の体調が不明なため、つい立てにて対応（フェイスガード付き）



会話は、つい立てを使用する場合と、距離を取る場合あり
※相談時はつい立て使用予定
水分はペットボトル、お土産にお菓子あり（熱中症予防のため、水分摂取可、食事は不可）



部屋の換気+扇風機にて空気を外へ
スタッフの当日の体調チェック表を外に張り出す



ネットで集め、当施設所属の公衆衛生に長けた医師とともに検討した。次に、資料2をチラシとして作成し、ホームページ等で公開した。地域の方に安心してもらうため情報発信は重要だ。

感染対策をまとめていた最中の2020年4月に緊急事態宣言が初めて発令され、より世の中のコロナへの脅威が増していった。このため、地域支援を行ううえでの中止基準を作り、安心感を高めていった。

現在の地域支援中止の基準は二つある。

一つは「施設内で陽性者が発生し、運営の制限が出ている時」、もう一つは「まん延防止以上の施策が発令された時」である。これらの基準は地域の感染状況に合わせて、当施設独自の考え方で指標を作成したものである。指標の詳細は本連載最終回で示す。

コロナ禍で参加者に言われたこと

地域支援に参加していただいている方の生の声を紹介する。

- ・いつも忙しいのに、楽しい場所を作ってくれてありがとう
 - ・ストレスがたまっている中、この場所はみんなに会えるから癒やされる
 - ・また来月来るよ
- このような声は、スタッフのモチベーショ

ンを高めると同時に、地域支援の需要を大きく感じられる。

感染対策の基本

すでに、本誌読者には染みついているだろうが、再確認のため感染対策の基本を示す。

大前提として、3密（密閉空間・密集場所・密接場面）を避けることである。また、追加で以下の3つを示す。

- ①換気を徹底する（エアロゾル感染対策）
- ②近くに他者がいるときは不織布マスクを着用する（飛沫感染対策）
- ③手指消毒の徹底（接触感染対策）

提言

コロナと人類の関係は、インフルエンザウイルスのようにイタチごっこである。コロナの脅威はいずれ誰もが服用できる内服薬が開発され、感染症分類5類になり薄れるだろう。それを待つのもよいが、ピンチはチャンスの精神を基に、本稿を読んでいる時点での世の中の状況や環境下で、あなたができる高齢者への支援を考え、実行することを地域は欲している。それが、利用者満足度を上げるための近道ではないだろうか。